

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300469		
法人名	有限会社 なかがわ苑		
事業所名	グループホーム なかがわ苑		
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1		
自己評価作成日	平成22年2月7日	評価結果市町村受理日	平成21年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671300469&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671300469&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年2月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は利用者や家族へのより良いサービスの提供に常に力を入れている。散歩や体操といった体力づくりや好みの食事の提供など、一人ひとりに合ったケアやレクリエーション、外出等を通じて、利用者に日々の暮らしを楽しく幸せに感じていただくことを目標としている。家族には利用者の日々の暮らしの報告や家族会を通じて、信頼関係を深める努力をしている。また職員にとって働きやすい職場であることも、より良いサービスに繋がると考えている。職場の課題として職場環境、処遇改善や意欲向上を促すことのできる職場を理想とし、改善していこうと努めている。利用者と家族、職員の三者でサービスをより良いものにしていくことに力を入れている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、昔ながらの近隣のつながりが残っている地域にあり、自治会に加入して積極的に地域活動に参加している。近隣住民とは、利用者が近くの神社や公園に散歩に出かけたり、買い物に行った際に気軽に声をかけ合える関係が築かれている。また他の事業所との交流を積極的に行い、現状や課題を話し合うことにより、サービスの質の向上に努めている。職員は、「利用者の個性を否定せず、本人の希望や要望に個別に対応する」ことをモットーとして、利用者が気持ちよく過ごしてもらえるように努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し、事業所独自の運営理念をつくり、申し送り等で唱和している。	事業所独自の理念を作り、申し送り時に唱和して確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の方と挨拶を交わすなどふれ合う機会も多い。近隣の方には、家庭菜園で豊作だった物をいただいたり、ちらし寿司や柚子味噌をお返ししたり、また地域協議会の役員を努めるなどしてと交流を深めている。	地域の自治会に加入し、清掃奉仕などの地域活動に参加している。地元の敬老会や文化祭に参加し、積極的に交流の機会をつくっている。近隣住民とは常に声をかけ合う関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の協議会に参加して、認知症に対する理解を深めていただく機会を設けている。また人材育成のため実習生の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他のグループホームの方や近隣の方、民生委員に来ていただいたり、他のグループホームの運営推進会議に参加させてもらったりにして情報交換することで、できることを取り入れている。	運営推進会議は、利用者の家族や地域包括支援センター、民生委員などが参加して、事業所の取り組み状況や課題について意見交換が行われている。開催回数は過去1年間で、4回である。	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターの方と随時、連絡を取っている。家庭復帰の際には退苑後のサービス利用について、事業所とともに相談されたことで大変喜ばれた。	市町村とは、積極的に話し合う機会を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について勉強会を開いて全職員が理解を深め、どうすれば身体拘束をせずに危険を防ぐことができるかについて話し合い、身体拘束ゼロを目指している。	身体拘束を行わないケアについて、勉強会を持っている。玄関の施錠など身体拘束にあたることはなされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや勉強会等で虐待について学び、利用者への接し方を考え振り返る機会をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットや文書を開覧できるようにしている。申し送りや研修で議題にあげて知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の内容、個人情報保護、身体拘束などの説明を十分に行っている。誤解の生じないように注意し、理解・納得したうえで署名、捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱を設置し、家族が来苑された際には近況を話しながら要望を聴き、ケアプランの更新時に意見を反映している。	家族の来訪時には利用者の状況を説明し、要望や意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場におり、実際の状況を把握している。申し送り時やケース会議等で職員からあげられる意見を尊重し、業務に反映させている。	申し送り時に全職員が自由に意見を出し合い、出された意見はサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与や処遇の改善を行い、外部研修など職員のスキルアップ、動機付けなどを図り、やりがいのある職場環境の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は2名が新たな資格を取得し、現在も資格取得に向けて頑張っている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と運営推進会議などで、お互いの取り組みなどを話し合う交流の場を設けている。そこで情報交換し、日常業務へ反映してお互いに刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった場合は、訪問したりホームの見学や体験入居をしていただいたりして、本人の心身の状態や話を傾聴し、受容することで状況を把握して信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える悩みや葛藤を理解し、苦労やこれまでの経緯、サービス利用状況を聞いている。家族の意向を十分把握し、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの介護の様子や相談に至った経緯を利用者や家族に聞き、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを見極めて調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や暮らし方を把握し、料理の味付けや家事のコツを教えてもらうなど、好きなことや得意なことを活かし、利用者から学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族が何でも話しやすい雰囲気をつくって情報の共有を図りながら、協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との電話や馴染みの知人、友人に会う機会を持ち、継続して交流が図れるようにしている。	本人がこれまで培ってきた生活や人間関係を断ち切ることのないよう配慮した支援がなされている。以前習っていたお茶のお稽古に継続して通ったり、知人の作品展を見に行くなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や性格などに配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が仲立ちしてより良い関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後には入院見舞いや個別訪問するなどして、その後の生活を伺っている。いつでも相談できる体制があることを説明している。退苑予定の方には地域包括支援センターの職員を交えて今後のことを相談している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や家族から生活歴や暮らしぶりを聴き、会話や行動の中から利用者の意向を把握し、本人の目線で考えるようにしている。	本人のこれまでの生活歴や好みを把握し、暮らしの中での表情やしぐさから本人の希望や意向をくみ取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーや各種サービス利用機関から情報を収集し、本人の思いを十分把握している。センター方式を利用し、これまでの暮らしの把握が向上できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に一人ひとりの状況を話し合い、変化に迅速に対応できるよう話し合っている。また一人ひとりの生活リズムを把握し、その人らしく生きていけるように努めている。職員間で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。	本人や家族の意見、要望を反映した介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアファイルや実践記録表の作成により、日々の経過観察ができるようにしている。気になる行動などを記録して申し送りで情報を共有し、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出の付き添いなど個別にあったニーズを本人や家族から聞き、必要な支援は家族と連携をとりながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不在者投票や理髪店、近隣商店への買い物に出かけたり、地区主催の敬老会に参加したりするなど、地域資源を活かした支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による週2回の訪問診療があり、利用者とも信頼できる関係になっており、そのつど、検査や注射等をしてもらっている。さらに利用者の状態や家族の要望を考慮し、他の医療機関の受診支援も行っている。	本人や家族の希望にそい、協力医療機関や入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の医師による週2回の訪問診療が実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の来訪を通して利用者とも馴染みの関係になっており、体調不良時は個別に相談、点滴等の処置もしてもらっている。往診の際には利用者の体調を報告、相談し管理していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に行き、本人の状態を把握している。医療機関や家族と情報交換し、今後について協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時に終末期ケアについて説明し、十分な理解・了解をいただいている。状況により家族の方へ報告し、そのつど話し合い、考えられている。	利用開始時に本人や家族と話し合い、方針を決めている。本人の状態の変化に伴って、再度話し合いを持つようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットの記録と報告を行い、事故の再発防止に努めている。急変時に落ち着いて対応できるようマニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時・事故マニュアルを作成して、全職員が理解しており、消防署の方から説明も受けている。年2回の避難訓練を行っている。災害時の緊急連絡網を作成している。	避難訓練は、利用者や職員に加えて、地域住民にも呼びかけて、年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを守り、人生の先輩として尊重し丁寧な言葉かけを全職員で徹底している。	職員は利用者を人生の先輩として、敬意を持って接している。誇りやプライバシーを損ねない支援を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれに合った声かけを行って自己決定できる場をつくり、その考え方を尊重し希望を把握、納得できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間・入浴・食事等これまでの環境によって、一人ひとりのペースや思いを大切にできるだけペースを合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使用されていた愛用の品や小物(手袋、マフラー、スカーフ等)を持ち込んでいただき、その人らしい身だしなみやおしゃれなどを維持できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる献立や盛り付け、片付けなどを一緒に行い、利用者と職員が同じテーブルで楽しい雰囲気をつくることを心がけている。	職員は利用者の好みを聞きながら、季節感のある食材を使った献立をたてている。利用者は、一緒に食材を買いに行ったり、下ごしらえを手伝ったりして、楽しく食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時やおやつ時、お風呂あがりなど決まった時間に水分を摂取してもらい、室内の温度によって量を調整している。その時の状況により栄養が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き誘導・介助を行っている。困難な方は口腔ケアや入れ歯洗浄等を職員が手助けし、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を重視し、その人に応じた介助を行っている。パンツやパットの形態や使い方を随時検討している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して適切なトイレ誘導をすることにより、失敗が少なくなるよう積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜ジュースや食物繊維等、飲食物に気を配っている。排泄パターンを記録し毎朝の散歩や体操等の運動に取り組んでいる。排泄が困難な場合は、医師の指示のもと便秘薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間に入浴していただいている。四季折々に菖蒲湯やゆず湯など変化をつけ、楽しんで入浴していただいているようにしている。	午前中の中入浴を基本としているが、本人の希望により時間帯を変更したり、入浴の順番を選んでもらったりしている。入浴が楽しみなものとなるよう、菖蒲湯やゆず湯などで変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた布団や寝具を使用してもらい、安眠してもらえようとしている。また季節に合わせて室温を調節し、冬場には電気毛布等で布団を暖めて入眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識を持った職員が、自分では確認が十分できない方に服薬確認をしている。薬の変更があった時には、全職員に申し送りして伝達を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や生活歴を把握し、利用者一人ひとりの趣味を活かした楽しみを持っていただいている。個別レクリエーションや誕生日プレゼントを用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や初詣、花見等、季節のイベントに参加できるように援助し、外食や買い物など家族の方と一緒に出かけられるようにしている。	年間行事計画を立て、四季折々の花見やイベント、外食など、月1回は外出できるようにしている。また外出の際には、家族にも参加してもらえよう呼びかけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、品物を選んでいただき、レジでお金を支払う支援をしている。一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使ったりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけやすい雰囲気をつくっている。手紙やハガキ等も出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いなどの返事もできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各トイレには不快な臭いがしないように細めに掃除をしている。台所からは料理の匂いがしており、ホール、玄関などには生け花や季節に合った飾り付けを行っている。	玄関や共用空間の各所には花が飾られ、清潔で落ち着いた雰囲気となっている。利用者は、食卓の椅子やソファでゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、椅子、畳コーナーがあり、お気に入りの場所で過ごされている。食事の際は気の合った利用者同士で食事ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や思い出深い品、写真を持ち込んでいただき、利用者が落ち着いた空間で過ごすことができるように配慮している。	居室には、本人が使い慣れた机や座椅子、仏壇などが持ち込まれている。家族の写真や利用者の作品などを飾り、それぞれの好みに合った居室づくりが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、各部屋や設備の目印、必要な場所には手すりなど、何が必要かを見極めて不安や失敗を招くことのない環境を検討し対応している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員が理解し、事業所独自の運営理念をつくり、申し送り等で唱和してる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の方と挨拶を交わすなど触れ合う機会も多い。近隣の方には、家庭菜園で豊作だった物をいただいたり、ちらし寿司や柚子味噌をお返ししたり、また地域協議会の役員を努めるなどして交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の協議会に参加して、認知症に対する理解を深めていただく機会を設けている。また人材育成のため実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他のグループホームの方や近隣の方、民生委員に来ていただいたり、他のグループホームの運営推進会議に参加させてもらったりして情報交換することで、できる事を取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村や地域包括支援センターの方と随時、連絡を取っている。家庭復帰の際には退苑後のサービス利用について、事業所とともに相談されたことで大変喜ばれた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について勉強会を開いて全職員が理解を深め、どうすれば身体拘束をせずに危険を防ぐことができるかについて話し合い、身体拘束ゼロを目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや勉強会等で虐待について学び、利用者への接し方を考え振り返る機会をもつようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットや文書を開覧できるようにしている。申し送りや研修で議題にあげて、知識を深めている。実際に成年後見制度を活用される方もおり、契約時に全職員が制度について勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の内容、個人情報保護、身体拘束などの説明を十分に行っている。誤解の生じないように注意し、理解・納得したうえで署名、捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱を設置し、家族が来苑された際には近況を話しながら要望を聴き、ケアプランの更新時に意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場におり、実際の状況を把握している。申し送り時やケース会議等で職員からあげられる意見を尊重し、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与や処遇の改善を行い、外部研修など職員のスキルアップ、動機付けなどを図り、やりがいのある職場環境の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は2名が新たな資格を取得し、現在も資格取得に向けて頑張っている職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と運営推進会議などで、お互いの取り組みなどを話し合う交流の場を設けている。そこで情報交換し、日常業務へ反映してお互いに刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった場合は、訪問したりホームの見学や体験入居をしていただいたりして、本人の心身の状態や話を傾聴し、受容することで状況を把握して信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱える悩みや葛藤を理解し、苦労やこれまでの経緯、サービス利用状況を聞いている。家族の意向を十分把握し、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの介護の様子や相談に至った経緯を利用者や家族に聞き、本人にとって何が一番必要なサービスであるかを見極めて調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や暮らし方を把握し、料理の味付けや家事のコツを教えてもらうなど、好きなことや得意なことを活かし、利用者から学び支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族が何でも話しやすい雰囲気をつくって情報の共有を図りながら、協力して一緒に支える関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内にある行きつけの理髪店を利用したり、馴染みの知人や友人に会う機会を持ったりして、継続的に交流が図れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や性格などに配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が仲立ちしてより良い関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後には入院見舞いや個別訪問するなどして、その後の生活を伺っている。いつでも相談できる体制があることを説明している。退苑予定の方には地域包括支援センターの職員を交えて今後のことを相談している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や家族から生活歴や暮らしぶりを聴き、会話や行動の中から利用者の意向を把握し、本人の目線で考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーや各種サービス利用機関から情報を収集し、本人の思いを十分把握している。センター方式を利用し、これまでの暮らしの把握が向上できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に一人ひとりの状況を話し合い、変化に迅速に対応できるよう話し合っている。また一人ひとりの生活リズムを把握し、その人らしく生きていけるように努めている。職員間で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。アセスメントを含め職員間で意見交換を行い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアファイルや実践記録表の作成により、日々の経過観察ができるようにしている。気になる行動などを記録して申し送りで情報を共有し、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出の付き添いなど個別にあったニーズを本人や家族から聞き、必要な支援は家族と連携をとりながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不在者投票や理髪店、近隣商店への買い物に出かけたり、地区主催の敬老会に参加したりするなど、地域資源を活かした支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による週2回の訪問診療があり、利用者とも信頼できる関係になっており、そのつど、検査や注射等をしてもらっている。さらに利用者の状態や家族の要望を考慮し、他の医療機関の受診支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の来訪を通して利用者とも馴染みの関係になっており、体調不良時は個別に相談、点滴等の処置もしてもらっている。往診の際には利用者の体調を報告、相談し管理していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に行き、本人の状態を把握している。医療機関や家族と情報交換し、今後について協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入苑時に終末期ケアについて説明し、十分な理解・了解をいただいている。状況により家族の方へ報告し、そのつど話し合い、考えられている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットの記録と報告を行い、事故の再発防止に努めている。急変時に落ち着いて対応できるようマニュアルを作成し、閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時・事故マニュアルを作成して、全職員が理解しており、消防署の方から説明も受けている。年2回の避難訓練を行っている。災害時の緊急連絡網を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを守り、人生の先輩として尊重し丁寧な言葉かけを全職員で徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれに合った声かけを行って自己決定できる場をつくり、その考え方を尊重し希望を把握、納得できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間・入浴・食事等これまでの環境によって、一人ひとりのペースや思いを大切にしてできるだけペースを合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使用されていた愛用の品や小物(手袋、マフラー、スカーフ等)も持ち込んでいただき、その人らしさを維持できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる献立や盛り付け、片付けなどを一緒に行い、利用者と職員が同じテーブルで楽しい雰囲気をつくることを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時やおやつ時、お風呂あがりなど決まった時間に水分を摂取してもらい、室内の温度によって量を調整している。その時の状況により栄養が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き誘導・介助を行っている。困難な方は口腔ケアや入れ歯洗浄等を職員が手助けし、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を重視し、その人に応じた介助を行っている。パンツやパットの形態や使い方を随時検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜ジュースや食物繊維等、飲食物に気を配っている。排泄パターンを記録し、毎朝の散歩や体操等の運動に取り組んでいる。排泄が困難な場合は、医師の指示のもと便秘薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する時間に入浴していただいている。四季折々に菖蒲湯やゆず湯など変化をつけ、楽しんで入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた布団や寝具を使用してもらい、安眠してもらえるようにしている。また季節に合わせて室温を調節し、冬場には電気毛布等で布団を暖めて入眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識を持った職員が、自分では確認が十分できない方には服薬確認をしている。薬の変更があった時には、全職員に申し送りで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や生活歴を把握し、利用者一人ひとりの趣味を活かした楽しみを持っていただいている。個別レクリエーションや誕生日プレゼントを用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や初詣、花見等、季節のイベントに参加できるように援助し、外食や買い物など家族の方と一緒に出かけられるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、品物を選んでいただき、レジでお金を支払う支援をしている。一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使ったりできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけやすい雰囲気をつくっている。手紙やハガキ等も出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いなどの返事もできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各トイレには不快な臭いがしないように細めに掃除をしている。台所からは料理の匂いがしており、ホール、玄関などには生け花や季節に合った飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、椅子、畳コーナーがあり、お気に入りの場所で過ごされている。食事の際は気の合った利用者同士で食事ができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や思い出深い品、写真を持ち込んでいただき、利用者が落ち着いた空間で過ごすことができるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、各部屋や設備の目印、必要な場所には手すりなど、何が必要かを見極めて不安や失敗を招くことのない環境を検討し対応している。		